

7月26日開催、第156回砂利船部会議事概要

当日、神戸市三宮東急REIホテルにおいて、藤井会長、岡田担当副会長、藏本副会長臨席の下、標記部会を開催し、概要以下の通り審議した。

尚、本部会は新委員による最初の部会であることから部会長選出までの間、事務局にて議事進行を行った。

1. 部会長の選出について

事務局は、部会規約について説明を行い、次いで部会長選出について諮った処、出席委員より前年度に引き続き、松田委員を部会長にとの発言があり、審議の結果、満場一致で松田委員を選出し、承認された。

(以下敬称略)

部会長 松田紀道 (千葉) (重任)

松田部会長は、議長に就任するとともに副部会長を以下の通り指名し、満場一致で承認された。

副部会長 小田徳彦 (東海) (重任)

〃 黒田直克 (兵庫) (新任)

〃 橋本隆志 (四海連) (新任)

〃 中根隆 (中海連) (新任)

〃 大坪政治 (九海連) (重任)

2. 平成29年度砂利船部会活動方針について

審議の結果、議長は、全海運の事業計画に沿って活動してゆくとともに、砂利船業界にとって喫緊の課題である若年船員の育成と雇用に係る諸費用等についての補助金交付について、各地区でも前向きな検討・対応を要請していきたい旨述べ、了承された。

尚、委員より全海運の事業計画8項目の中の「暫定措置事業終了を見据えた組合の組織並びに活動のあり方検討」について、特にガットクレーンについては、発注から3カ年もかかることから一刻も早く組合上層部で暫定措置事業終了後の道筋を確立、発表し内航全事業者に周知するべきとの意見が述べられた。

又、委員よりベテラン船員再雇用の際、船員保険の手続きが非常に煩雑であり、船主にとっての負担も大きいことから、高齢者再雇用の場合は、船員保険に限らず任意保険でも乗船できるよう国へ要望してほしい旨、発言があり、議長は、暫定措置事業終了問題とともに全海運の理事会へ砂利船部会の要望事項として上程したい旨述べ、了承された。

3. 諸法制見直し検討委員会、委員の選出について

議長は、砂利船・船主・輸送の3部会委員によって構成される本委員会の委員について選出方を要請し、審議の結果、当部会として以下の通り委員を選出し、了承された。

委員	小田 徳彦	(東海)	(新任)
〃	黒田 直克	(兵庫)	(新任)
〃	橋本 隆志	(四海連)	(重任)
〃	大坪 政治	(九海連)	(重任)

4. その他

イ. 二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金について

事務局より環境省による物流分野におけるCO₂削減対策促進事業の二酸化炭素被出抑制対策事業等補助金の2次募集について説明を行い、補助金申請に向けて、協力方を要請した、

ロ. 内航海運の活性化にむけて

「内航未来創造プラン - たくましく日本を支え進化する - 」

国土交通省による内航海運の活性化に向けた今後の方向性検討会委員である藏本副会長は、先般、取り纏められた「内航未来創造プラン」について資料に基づき説明を行い、了承された。

以上で当日の会議議題を終了し、議長は閉会を宣した。

以 上